

## 2003年度第6回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2004年(平成16年)1月28日(水) 16:15～16:40

場所：L-911

出席者：計 88名

欠席者：計 23名

配布資料(当日配布)：

- 1 [資料1]新ホフマン計画案(最終報告書)
- 2 [資料2]企画書(最終報告/新ホフマン計画[案])について 意見書

### 議 事

会議に先立ち、配布資料の確認と説明があった。

#### 1. 新ホフマン計画(案)の審議について

専門部会各検討専門委員会における企画案の検討を踏まえ、最終企画案(最終報告)を「新ホフマン計画(案)」として審議することとした。

##### (1)アカデミック・プラン等検討専門第1委員会

###### (a)「比較文化学部における国際教養教育の統合・強化」

- 池尾学務担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第1委員会委員長)から以下の説明が行なわれた後、米本学事部学務課係長(アカデミック・プラン等検討専門第1委員会事務担当)から最終報告書の朗読があった。
  - アカデミック・プラン等検討専門第1委員会の下に、「学部・学科再編小委員会」を2001年9月に発足させ、共通の理解のもとで学部・学科の再編について検討を行なっている。
  - 2002年6月に最終報告書「学部・学科体制の基本構想」を取りまとめたが、この「基本構想」に基づいて、各学部等の再編計画案が定まったところから順次最終報告書を提出し、審議をお願いしているところである。
  - 本計画は、2003年10月に比較文化学部から提案があった。比較文化学部の教育内容に関しては、2003年9月に文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(COL)に採択されており、現在の教育研究をより良くすることを目指して、改革を行なおうとするものである。
- 最終報告書朗読の後、池尾学務担当副学長から、立上時期は2005年4月を希望しているとの補足説明があった。

## 〈質疑応答〉

Q. 改革案の中にある、「国際日本研究コース」について、もう少し詳しい説明がほしい。また、このコースの英語名称はどのようになるのか。

A. 「国際日本研究コース」は、現在、日本語・日本文化学科で行なわれている「日本語・言語学専攻」と「日本研究専攻」の二つの専攻を一つにして展開することを目指している。従来行なっている日本語教員養成もここで行なうことになる。

「国際日本研究コース」の英語名称については、まだ検討中である。私案の域を出ないが、“International Japanese Studies”あるいは“Japanese Studies”というものが考えられると思う。

(Grove比較文化学部長)

最終企画案(最終報告)の審議のあと、議長から意見書提出の方法について説明があった。

- 今回の質疑応答以外にも、委員からさらに意見を聴取したいので、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、2004年2月13日(金)までに事務局(創立100周年記念事業推進室)まで提出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

## 2. 次回会議について

次回は、2004年3月3日(水) 15:30から、L-911で行なうこととする。

## 3. 長期計画の進捗状況について

会議の最後にあたって、高祖理事長から、以下の発言があり、関係者の協力を要請した。

- 前回の長期計画企画拡大会議でも触れた通り、グランド・レイアウトの検討項目の中には、まだ審議されていない、あるいは、具体案が固まっていないものがある。それぞれの検討事項の中には、相互に関連し合っているものも多いため、足並みを揃えて検討していくことも必要である。各委員会で知恵を出し合い検討していただいているが、さらに精力的に審議を進めるようお願いしたい。

また、高祖理事長から、長期計画の全体的な状況等について補足説明があった。

- 2004年1月5日の賀詞交歓会の念頭挨拶において、新ホフマン計画の進捗状況についての概要説明を行なった。その内容の要旨が、2004年1月25日発行の『上智大学通信』に掲載されているので、ご覧いただきたい。
- 「ヒューマン・ディグニティ構想に伴う新学部・新研究科の設置計画」については、文学部教育学科・

文学部心理学科・文学部社会福祉学科に、文学部社会学科を加えて設置することとなり、2004年1月14日に岡本英雄・文学研究科委員長を委員長とする、新学部・新研究科設置委員会を立ち上げた。2005年4月の開設に向け、詳細を検討中であり、2004年6月に文部科学省に届出るよう準備を進めている。各部署にもさまざまな係りを持つことにもなるので、ご協力をお願いしたい。

- 「地球環境大学院」については、設置構想委員会を立ち上げ、設置の趣旨やカリキュラムを検討・作成中である。2004年1月中旬に、官公庁・企業等にアンケートをお願いし、社会のニーズや意見を伺っているところである。
- 「研究機構」については、讃井浩平・理工学部教授のもとで、設立案を作成していただき、現在は移行委員会において細部を詰めているところである。2004年4月に研究機構を立ち上げる予定であり、現行の研究所をどのような手順でまとめていくかを検討中である。
- 「外国語学研究科再編」については、2004年1月14日に、石澤良昭・外国語学部教授を座長とする予備調査会を立ち上げたところである。
- 「基金・募金・寄付金室」を、2004年1月28日の理事会（本長期計画企画拡大会議の終了後に開催）で正式に発足させる予定である。

以上